

経済マンスリー [解説]

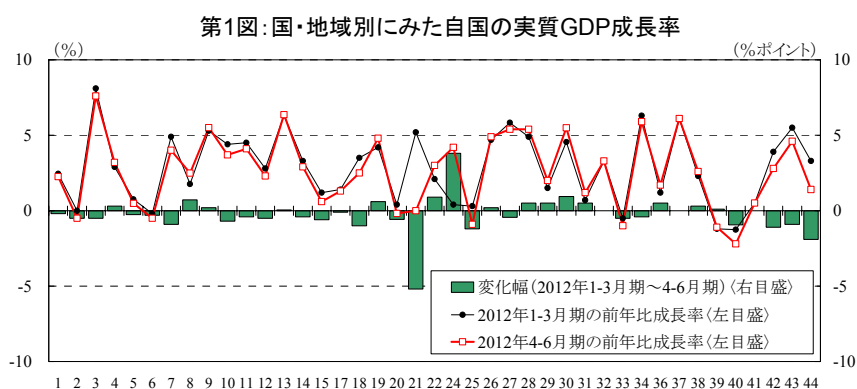
各国経済にとっての“海外経済”動向

【要旨】

- ◇ 世界的に景気の足取りが重くなってきた状況下、それぞれの国・地域から“海外経済”を眺めるとどう見えるのか、が本稿のテーマである。
- ◇ 国際決済銀行が作成する各国間の貿易ウェイトを援用しデータの整う 44 カ国・地域ごとに貿易相手の実質 GDP 成長率の加重平均値を計算してみると、直近 4-6 月期には米国が前年比+3.2%、ユーロ圏が同+2.8%、中国が同+1.9%。同+3.6%の我が国を含め計 40 カ国で 1 四半期前の 1-3 月期に比べ低下となったが、とりわけ欧州諸国において低下幅が大きかった。片や、上昇となった 4 カ国は全てアジア内。レベル的にも台湾の同+3.8%が最高であった。
- ◇ もう少し以前を比較対象とした場合には、結果がやや異なる。例えば 2 年前の 2010 年 4-6 月期対比では、香港の▲5.2%ポイントを筆頭にアジア各国にとっての“海外経済”の成長鈍化が目立ってくる。ただ、貿易相手国の成長率が元より高かった点は割り引いて解釈する必要があるし、依然として前年比+3%台という国が大半。このことを現時点で評価するなら、循環的な上下動の一局面、反動の範囲内といった辺りが適切だと考える。
- ◇ こうした“海外経済”の動きを対主要国・地域間の貿易量と逐次照合すると、1 四半期前や 1 年前の期間では対ユーロ圏間、過去 2 年間では対アジア間貿易ウェイトの高低との逆相関関係が浮かび上がる。すなわち、ユーロ圏との貿易関係が深い国（主に欧州諸国）ほど“海外経済”の限界的な減速が著しく、若干長めの時間軸でみた場合にはアジアとの貿易関係が深い国（主にアジア域内各国）ほど“海外経済”の成長鈍化が大きいとの構図。好影響も悪影響も係わりを密にする近隣を中心に及ぶというわけである。
- ◇ 一方、自国と貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率の差で測った内外格差は、中国が最も大きいほか、インドネシアやインドなどもプラス方向にある。現状で大幅なプラス格差をもたらし、且つ、この先でも世界経済の牽引役となり続けそうな勢いの窺える候補が、十分な経済規模を持つ国・地域のなかでは限られるため、期待は自ずとこれらアジアの国へ集まるところだ。

1. 国・地域ごとに異なる貿易相手先経済の成長率

足元にかけて、世界経済の動きが広範に鈍り、雲行きが一段と怪しくなっている。まず、主な国・地域別に自身の実質 GDP 成長率を確認してみると、直近 4-6 月期には名目 GDP (IMF 推計値を含む 2011 年の米国ドル建て金額) 規模で最大の米国が前年比+2.3% (1-3 月期は同+2.4%)、深刻な債務問題を抱えるユーロ圏が同▲0.5% (同 0.0%、名目 GDP 規模は上位 2 番目)、続く中国が同+7.6% (同+8.1%、同 3 番目) など (第 1 図)。ここで対象とした 41 カ国 (注 1) の半分以上に当たる合計 23 カ国が前期から減速、さらに計 7 カ国がマイナス成長という状況だ (注 2)。こうしたなか、同 4 番目の我が国は同+3.2%と、1-3 月期の同+2.9%を超える成長率を記録。4-6 月期に実質 GDP 前年比成長率を加速させた数少ない国の一つとなった。



(注) 名目 GDP (IMF による推計値を含む 2011 年の米国ドル建て金額) の大きい順に、『1』番目 (米国) から『44』番目の国 (アイスランド) までを並べたもの。ただし、16 番目のサウジアラビア、23 番目のアラブ首長国連邦、35 番目のアルジェリアの 3 カ国は、データ制約から対象外。
(資料) 各国統計、Bloomberg、IMF 統計より三菱東京UFJ 銀行経済調査室作成

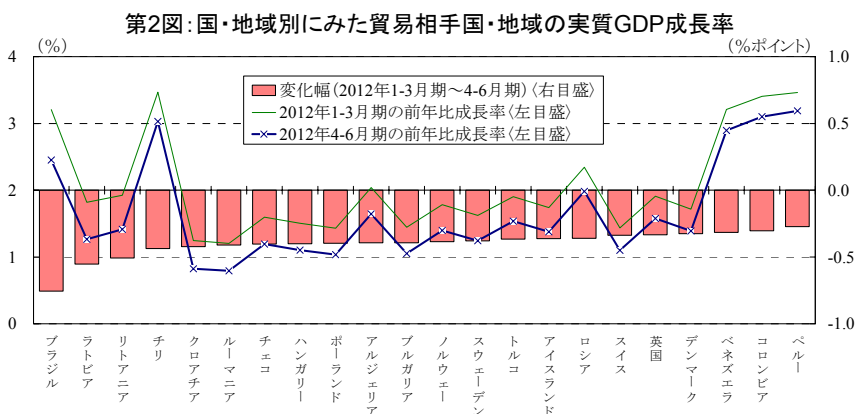
(注 1) 本稿での対象国は、国際決済銀行が実効為替レート (Broad ベース) を算定・公表している (結果、各国・地域間の貿易ウェイトを網羅的に把握できる) 全 60 カ国のうち、ユーロ圏 17 カ国を一経済として括り、合計 44 カ国・地域とした。ただし、名目 GDP 規模 16 番目のサウジアラビア、同 23 番目のアラブ首長国連邦、同 35 番目のアルジェリアについては、実質 GDP データが年単位でしか取得できないため、ここ第 1 図においては対象外、また、これ以降でも「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率」を計算する際には除外 (これら自身の「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率」は、他国・地域と同様に算出)、としている。ちなみに、当 3 カ国の貿易ウェイト (2008 年～2010 年) は最も大きいインドで 6.4%、日本では 1.2%に過ぎない。

(注 2) 名目 GDP 規模の大きい 20 カ国 (16 番目のサウジアラビアを除いて 21 番目のアルゼンチンまで) に限ると、4-6 月期、4 分の 3 の 15 カ国で実質 GDP 前年比成長率が低下。また、同期にマイナス成長となったところを列挙しておく、ユーロ圏のほか、名目 GDP 規模 6 番目の英国 (前年比▲0.5%)、同 20 番目の台湾 (同▲0.2%)、同 25 番目のデンマーク (同▲0.9%)、同 33 番目のチェコ (同▲1.0%)、同 39 番目のハンガリー (同▲1.1%)、同 40 番目のクロアチア (同▲2.2%)。台湾以外は、全て欧州となる。

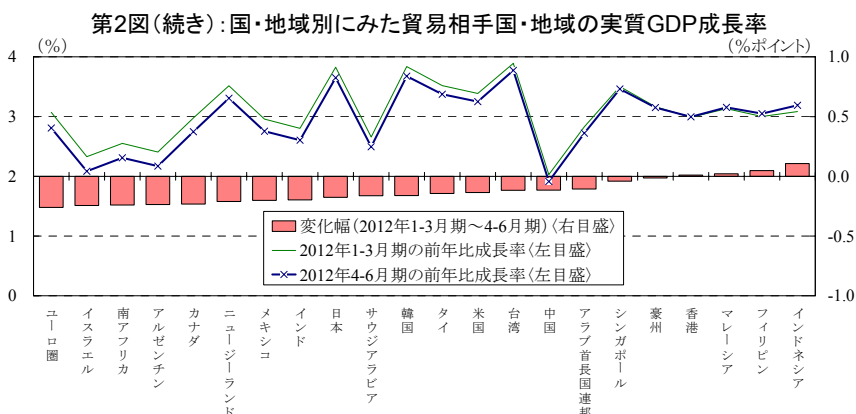
翻って、本題の『各国経済にとっての“海外経済”動向』。それぞれの立場から眺めると、他所の経済はどのような姿に映っているのかという点である。国・地域ごとに、前段でみた各実質 GDP 成長率を国際決済銀行が実効為替レートの算定に用いている貿易相手のウェイト (2008 年～2010 年の貿易額等に基づくもの) で加重平均した場合、例えば、米国の 4-6 月期の「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率」は前年比+3.2% (注 3)、ユーロ圏は同+2.8%、中国とインドはやや低く同+1.9%、同+2.6%、日

本は同+3.6%となる（第2図）。1-3月期に比べて▲0.1%ポイント～▲0.3%ポイントの低下となっている。さらに、ラトビアやリトアニアなどの欧州諸国では、低下幅がより深い（落差だけならブラジル、チリ辺りも大きい）。縮めて44カ国中40カ国で貿易相手先の実質GDP成長率が1-3月期から4-6月期にかけて切り下がったが、インドネシア（+0.1%ポイントと最大）、フィリピン、マレーシア、香港の4カ国では小幅上昇している。また、4-6月期の水準は台湾の同+3.8%が最高、ルーマニアの同+0.8%が最低であった。当然のこととは言え、温度差はしっかりと生じている模様だ。

（注3）具体的に、米国の「貿易相手国・地域の実質GDP成長率」は、{中国の実質GDP前年比成長率×米国からみた貿易上の中国のウェイト：20.9%} + {ユーロ圏の成長率×同ユーロ圏のウェイト：17.4%} + {カナダの成長率×同カナダのウェイト：13.3%} + {メキシコの成長率×同メキシコのウェイト：11.5%} + {日本の成長率×同日本のウェイト：8.8%} + + {アイスランドの成長率×同アイスランドのウェイト：0.01%} として計算。なお、44カ国・地域の値を単純に平均すれば、1-3月期が前年比+2.6%、4-6月期が同+2.3%となる。



（注）『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート（Broadベース）の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
（資料）各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

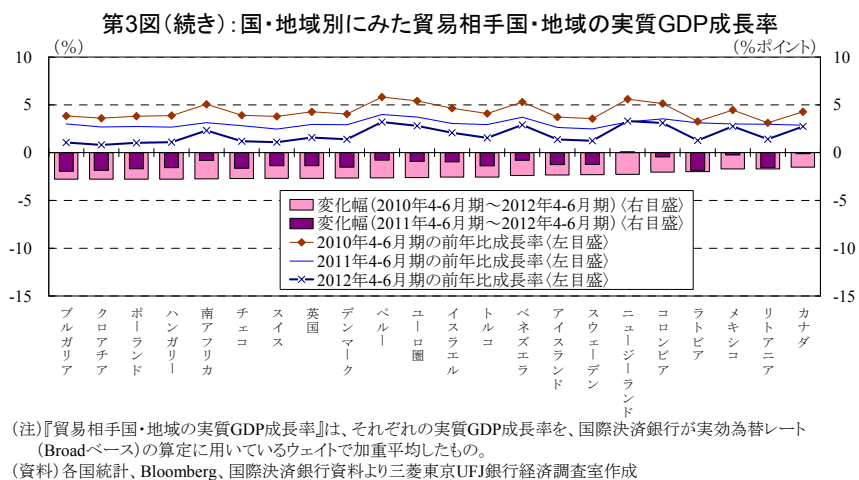
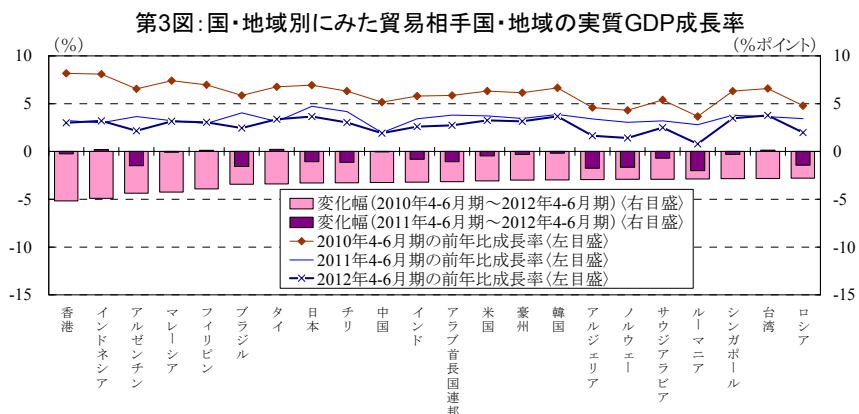


（注）『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート（Broadベース）の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
（資料）各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

2. 限界的には欧州、過去2年間ではアジアにおいて貿易相手の成長鈍化が顕著

もう少し遡りながら、「貿易相手国・地域の実質GDP前年比成長率」の推移を辿り直すと、様相が若干変わってくる。1年前＝2011年4-6月期との対比ではルーマニア（▲2.0%ポイント）、ブルガリア（▲2.0%ポイント）、クロアチア（▲1.9%ポイント）、

ラトビア（▲1.9%ポイント）をはじめ、欧州諸国における低下幅の大きさが引き続き目立つものの、2年前=2010年4-6月期と比較した場合には代わってアジア勢の結果が悪くなる（第3図）^{（注4）}。個別に言えば、香港が▲5.2%ポイント、インドネシアが▲4.9%ポイント、マレーシアが▲4.3%ポイント、フィリピンが▲3.9%ポイント、タイが▲3.4%ポイントといった幅で、過去2年間に貿易相手先の成長率の低下を経験。日本や中国もこの例に洩れず、それぞれが▲3.3%ポイントもの“海外経済”の成長鈍化に直面している。尤も、2年前という時期を振り返ってみるに状態がかなり良かったことも事実。2010年4-6月期にはほとんどの国（44カ国中35カ国）で貿易相手側の成長率がリーマン・ショック後のピークとなったが、とりわけアジアの貿易相手国の回復は力強かった（香港とインドネシアの前年比+8%超が同期の最高で、逆に最低はリトアニアの同+3.1%）。その分だけアジアの「貿易相手国・地域の実質GDP成長率」は落差が付き易かったであろうし、レベル的にも中国、インドを除くと今なお前年比+3%以上だ（対して欧州諸国では同+1%前後、また、44カ国・地域の単純平均値は同+2.3%）。現在のところは循環的な上下動の一局、反動の範囲内と評価しておきたい。

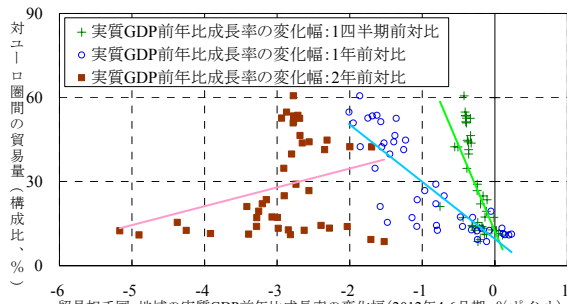


（注4）前章と同じく、「貿易相手国・地域の実質GDP成長率」が低下した国・地域を数え上げると、2011年4-6月期～今年4-6月期では計39。2010年4-6月期対比では、対象44カ国・地域の全てとなる。ちなみに、総平均値は2011年4-6月期が前年比+3.2%、2010年4-6月期が同+5.2%。

3. 目下の“海外経済”鈍化はユーロ圏、ここ2年間という時間軸ではアジアの影響大

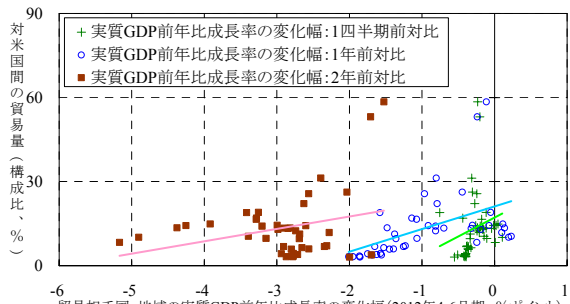
もとをただせば、こうした“海外経済”動向のズレ、「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率」の低下幅ないし鈍化度合いに違いが出てくるのは、各国・地域で貿易相手の構成、ウェイトが異なるためだ。本頁中の4図は、このことを改めて確かめるべく、「貿易相手国・地域の実質 GDP 前年比成長率の変化幅」と対主要国・地域間の「貿易量」を44カ国・地域についてプロットしたもの。最初に「対ユーロ圏間の貿易量」と組合せてみた場合、「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率の変化幅」は1四半期前比、1年前比で逆相関となり、貿易に占めるユーロ圏のウェイトが大きい国ほど“海外経済”が弱くなるとの関係を指し示す(相関係数も▲0.64、▲0.84と高め。第4図)。実際にも欧州諸国で貿易相手先の経済成長率の落ち込みが深い。また、いずれの期間対比でも正相関の「対米国間の貿易量」はさて置き(第5図)、好対照なのが「対アジア間および対日本間の貿易量」と突き合わせた場合である。「貿易相手国・地域の実質 GDP 成長率の変化幅」は1四半期前比、1年前比で正相関ながら(相関係数は0.72~0.83)、2年前比では逆相関となる(同▲0.51~▲0.63。第6図、7図)。個々にも、前段で過去2年間の“海外経済”成長率の顕著な低下を指摘したアジア諸国においては貿易全体に占める域内他国と日本のウェイトが大きく、そこからのマイナス寄与で低下幅の8割~9割が説明される(第1表)(注⁵)。やはり、地理的にも近く結び付きが密接な国同士は、良かれ悪しかれ内と外の景気が連動してくるというわけだろう。

第4図: 国・地域別にみた「貿易相手国・地域の実質GDP成長率の変化幅」と「対ユーロ圏間の貿易量」



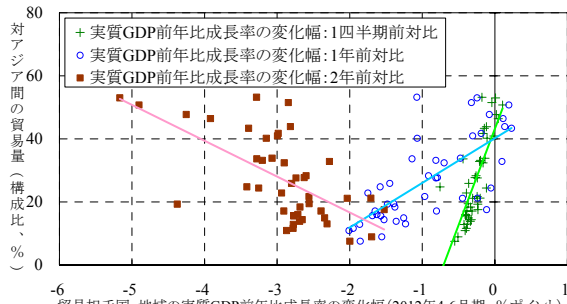
(注)1. 『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
2. 『対ユーロ圏間の貿易量』は、国際決済銀行が実効為替レート(同)の算定に用いている貿易額等を基にした各国通貨のユーロ圏分のウェイト(2008年~2010年)。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第5図: 国・地域別にみた「貿易相手国・地域の実質GDP成長率の変化幅」と「対米国間の貿易量」



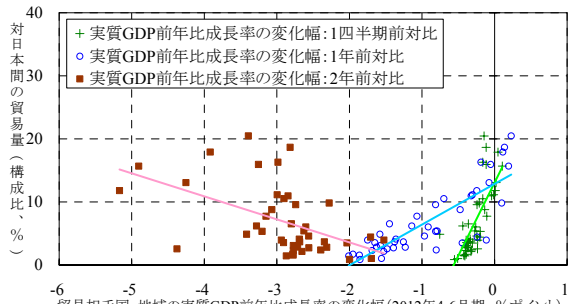
(注)1. 『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
2. 『対米国間の貿易量』は、国際決済銀行が実効為替レート(同)の算定に用いている貿易額等を基にした各国通貨の米国分のウェイト(2008年~2010年)。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第6図: 国・地域別にみた「貿易相手国・地域の実質GDP成長率の変化幅」と「対アジア間の貿易量」



(注)1. 『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
2. 『対アジア間の貿易量』は、国際決済銀行が実効為替レート(同)の算定に用いている貿易額等を基にした各国通貨のアジア10カ国分のウェイト(2008年~2010年)。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第7図: 国・地域別にみた「貿易相手国・地域の実質GDP成長率の変化幅」と「対日本間の貿易量」



(注)1. 『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
2. 『対日本間の貿易量』は、国際決済銀行が実効為替レート(同)の算定に用いている貿易額等を基にした各国通貨の日本分のウェイト(2008年~2010年)。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表：国・地域別にみた貿易相手国・地域の実質GDP成長率
 (各最上段：2010年4-6月期～2012年4-6月期の変化幅、矢印の上側：2010年4-6月期の前年比成長率、矢印の下側：2012年4-6月期の前年比成長率)

貿易相手国・地域合計		(%ポイント、%)														
		日本	アジア	中国	NIEs	アセアン	インド	オセアニア	中東	アフリカ	欧州	ユーロ圏	ユーロ圏外のEU	EU外の欧州	米国	カナダ
米国	▲3.07	▲0.11	▲1.49	▲0.57	▲0.73	▲0.13	▲0.05	0.01	▲0.03	▲0.00	▲0.71	▲0.49	▲0.15	▲0.06	▲0.15	▲0.58
	6.3	0.4	3.5	2.2	0.8	0.4	0.1	0.0	0.1	0.0	0.7	0.4	0.1	0.1	0.5	1.1
ユーロ圏	▲2.60	▲0.08	▲1.25	▲0.47	▲0.62	▲0.10	▲0.06	0.01	▲0.02	▲0.00	▲0.99	▲0.65	▲0.34	▲0.04	▲0.02	▲0.21
	5.4	0.3	2.9	1.8	0.7	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7	0.6	0.1	0.4	0.3
中国	▲3.25	▲0.21	▲1.95		▲1.71	▲0.19	▲0.05	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.79	▲0.55	▲0.16	▲0.08	▲0.05	▲0.23
	5.2	0.7	2.6		1.9	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	0.2	0.2	0.5	0.4
日本	▲3.28		▲2.51	▲0.81	▲1.37	▲0.30	▲0.03	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.57	▲0.40	▲0.11	▲0.06	▲0.04	▲0.14
	6.9		5.5	3.1	1.6	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.3	0.1	0.1	0.4	0.2
ブラジル	▲3.42	▲0.06	▲1.11	▲0.39	▲0.60	▲0.08	▲0.04	0.00	▲0.02	▲0.00	▲0.80	▲0.59	▲0.13	▲0.08	▲0.05	▲1.37
	5.9	0.2	2.5	1.5	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	0.1	0.2	0.5	1.8
英国	▲2.68	▲0.05	▲0.82	▲0.30	▲0.41	▲0.07	▲0.05	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.67	▲1.31	▲0.19	▲0.16	▲0.03	▲0.09
	4.3	0.2	1.9	1.1	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	1.6	1.1	0.2	0.3	0.3	0.1
ロシア	▲2.80	▲0.09	▲1.00	▲0.46	▲0.43	▲0.06	▲0.05	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.60	▲1.12	▲0.25	▲0.24	▲0.01	▲0.09
	4.8	0.3	2.6	1.8	0.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.6	0.9	0.3	0.3	0.1	0.1
カナダ	▲1.52	▲0.05	▲0.73	▲0.32	▲0.34	▲0.05	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲0.36	▲0.24	▲0.09	▲0.03	▲0.15	▲0.22
	4.3	0.2	1.8	1.2	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.1	0.1	1.5	0.4
インド	▲3.20	▲0.07	▲1.94	▲0.48	▲1.29	▲0.17		0.01	▲0.04	▲0.00	▲0.96	▲0.66	▲0.19	▲0.11	▲0.04	▲0.14
	5.8	0.3	3.8	1.8	1.5	0.5		0.0	0.1	0.0	1.0	0.5	0.2	0.4	0.1	0.2
豪州	▲3.00	▲0.15	▲1.99	▲0.57	▲1.03	▲0.35	▲0.04	0.00	▲0.01	▲0.00	▲0.71	▲0.49	▲0.18	▲0.05	▲0.04	▲0.08
	6.1	0.5	4.3	2.2	1.2	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.7	0.4	0.2	0.1	0.4	0.1
メキシコ	▲1.71	▲0.06	▲0.94	▲0.35	▲0.50	▲0.07	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲0.35	▲0.26	▲0.06	▲0.03	▲0.13	▲0.18
	4.5	0.2	2.2	1.3	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.1	0.0	1.3	0.3
韓国	▲2.98	▲0.21	▲2.02	▲0.76	▲1.05	▲0.15	▲0.05	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.52	▲0.38	▲0.10	▲0.05	▲0.03	▲0.18
	6.7	0.7	4.6	2.9	1.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.3	0.1	0.2	0.3	0.3
インドネシア	▲4.90	▲0.21	▲4.09	▲0.45	▲3.13	▲0.45	▲0.06	0.01	▲0.00	▲0.00	▲0.46	▲0.31	▲0.10	▲0.05	▲0.03	▲0.11
	8.1	0.7	6.4	1.7	3.5	1.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.3	0.2
トルコ	▲2.56	▲0.04	▲0.81	▲0.32	▲0.38	▲0.06	▲0.05	0.00	▲0.03	▲0.00	▲1.59	▲1.27	▲0.24	▲0.07	▲0.02	▲0.07
	4.1	0.1	2.0	1.2	0.5	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	1.6	1.0	0.3	0.3	0.2	0.1
スイス	▲2.69	▲0.05	▲0.65	▲0.20	▲0.36	▲0.06	▲0.03	0.00	▲0.02	▲0.00	▲1.82	▲1.49	▲0.27	▲0.06	▲0.02	▲0.11
	3.8	0.2	1.4	0.8	0.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	1.7	1.2	0.3	0.2	0.2	0.2
サウジアラビア	▲2.90	▲0.14	▲1.50	▲0.37	▲0.83	▲0.19	▲0.12	0.01	▲0.00	▲0.00	▲1.15	▲0.71	▲0.21	▲0.23	▲0.03	▲0.08
	5.4	0.5	3.2	1.4	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	0.2	0.3	0.3	0.1
スウェーデン	▲2.31	▲0.04	▲0.57	▲0.20	▲0.28	▲0.05	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.58	▲1.26	▲0.37	0.05	▲0.02	▲0.09
	3.6	0.1	1.3	0.8	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.7	1.0	0.4	0.3	0.2	0.1
ポーランド	▲2.77	▲0.03	▲0.66	▲0.27	▲0.33	▲0.04	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲2.02	▲1.50	▲0.38	▲0.14	▲0.01	▲0.05
	3.8	0.1	1.6	1.0	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.9	1.2	0.4	0.3	0.1	0.1
ノルウェー	▲2.91	▲0.05	▲0.76	▲0.27	▲0.42	▲0.05	▲0.03	0.00	▲0.00	▲0.00	▲2.01	▲0.98	▲0.93	▲0.10	▲0.02	▲0.06
	4.3	0.2	1.7	1.0	0.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.1	0.8	1.1	0.2	0.2	0.1
台湾	▲2.82	▲0.25	▲1.94	▲0.73	▲0.98	▲0.20	▲0.03	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.44	▲0.31	▲0.08	▲0.05	▲0.03	▲0.14
	6.6	0.9	4.6	2.8	1.2	0.5	0.1	0.3	0.0	0.0	0.4	0.3	0.1	0.1	0.3	0.2
アルゼンチン	▲4.38	▲0.03	▲0.73	▲0.36	▲0.28	▲0.07	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲0.56	▲0.43	▲0.08	▲0.05	▲0.03	▲3.00
	6.5	0.1	2.0	1.4	0.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.1	0.1	0.3	3.5
南アフリカ	▲2.74	▲0.13	▲1.17	▲0.44	▲0.52	▲0.12	▲0.09	0.01	▲0.02	▲0.00	▲1.21	▲0.83	▲0.30	▲0.09	▲0.03	▲0.18
	5.1	0.4	2.8	1.7	0.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	1.1	0.7	0.3	0.1	0.3	0.2
	2.3	0.3	1.6	1.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.3	0.1

(注) 1. 『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』の『貿易相手国・地域合計』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均、相手国・地域別には当該ウェイトを乗じたもの。
 2. 『アセアン』は44国、『オセアニア』は22国、『中東』は23国(貿易相手国としてはデータ制約から、『サウジアラビア』と『アラブ首長国連邦』を除く)、『イスラエル』は1国のみ、『アフリカ』は22国(同、『アルジェリア』を除く)、『南アフリカ』は1国のみ。
 『ユーロ圏外のEU』は10国、『EU外の欧州』は16国、『中南米』は17国。

(資料) 各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料、IMF統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第1表(続き):国・地域別にみた貿易相手国・地域の実質GDP成長率
(各最上段:2010年4-6月期~2012年4-6月期の変化幅、矢印の上側:2010年4-6月期の前年比成長率、矢印の下側:2012年4-6月期の前年比成長率)

	貿易相手国・地域合計																
	日本	アジア			中国	NIEs	アセアン	インド	オセアニア	中東	アフリカ	欧州	ユーロ圏	ユーロ圏外のEU	EU外の欧州	米国	カナダ
アラブ首長国連邦	▲3.15	▲0.10	▲1.79	▲0.29	▲0.82	▲0.21	▲0.47	0.00	▲0.00	▲0.00	▲1.17	▲0.67	▲0.19	▲0.31	▲0.02	▲0.01	▲0.06
	5.9	0.4	3.9	1.1	1.0	0.5	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	0.5	0.2	0.0	0.1
タイ	▲3.39	▲0.27	▲2.50	▲0.49	▲1.74	▲0.21	▲0.06	0.02	▲0.01	▲0.00	▲0.47	▲0.32	▲0.10	▲0.06	▲0.03	▲0.01	▲0.12
	6.8	0.9	4.7	1.9	2.0	0.8	0.2	0.1	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.3	0.0	0.2
デンマーク	▲2.65	▲0.03	▲0.63	▲0.25	▲0.30	▲0.06	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.89	▲1.23	▲0.65	▲0.01	▲0.02	▲0.01	▲0.07
	4.0	0.1	1.5	0.9	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.1	1.0	0.8	0.3	0.2	0.0	0.1
コロンビア	▲2.03	▲0.05	▲0.82	▲0.38	▲0.34	▲0.06	▲0.04	0.00	▲0.02	▲0.00	▲0.49	▲0.39	▲0.05	▲0.04	▲0.07	▲0.02	▲0.59
	5.1	0.2	2.1	1.4	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.7	0.1	1.7
ベネズエラ	▲2.40	▲0.03	▲0.63	▲0.35	▲0.23	▲0.03	▲0.02	0.00	▲0.00	▲0.00	▲0.50	▲0.40	▲0.06	▲0.04	▲0.08	▲0.01	▲1.14
	5.3	0.1	1.7	1.3	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.7	0.0	2.1
マレーシア	▲4.25	▲0.17	▲3.44	▲0.48	▲2.63	▲0.28	▲0.06	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.49	▲0.36	▲0.09	▲0.04	▲0.04	▲0.01	▲0.10
	7.4	0.6	5.7	1.8	2.9	0.8	0.2	0.1	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.4	0.0	0.2
シンガポール	▲2.85	▲0.14	▲2.08	▲0.47	▲1.02	▲0.52	▲0.08	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.51	▲0.36	▲0.11	▲0.04	▲0.03	▲0.01	▲0.07
	6.3	0.5	4.8	1.8	1.2	1.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.3	0.0	0.1
チリ	▲3.28	▲0.08	▲1.33	▲0.63	▲0.60	▲0.07	▲0.03	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.64	▲0.48	▲0.11	▲0.05	▲0.04	▲0.02	▲1.17
	6.3	0.3	3.4	2.4	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.4	0.1	0.1	0.4	0.1	1.5
香港	▲5.17	▲0.16	▲4.32	▲0.38	▲3.40	▲0.33	▲0.20	0.01	▲0.04	▲0.00	▲0.59	▲0.35	▲0.09	▲0.14	▲0.02	▲0.01	▲0.04
	8.2	0.5	6.6	1.5	3.8	0.8	0.6	0.0	0.1	0.0	0.6	0.3	0.1	0.2	0.2	0.0	0.1
イスラエル	▲2.56	▲0.06	▲1.03	▲0.28	▲0.57	▲0.08	▲0.11	0.00	▲0.00	▲0.00	▲1.23	▲0.75	▲0.20	▲0.28	▲0.06	▲0.02	▲0.16
	4.6	0.2	2.2	1.1	0.7	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	1.2	0.6	0.2	0.4	0.6	0.1	0.2
チェコ	▲2.71	▲0.04	▲0.69	▲0.29	▲0.32	▲0.06	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.91	▲1.51	▲0.27	▲0.14	▲0.01	▲0.00	▲0.05
	3.9	0.1	1.7	1.1	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.9	1.2	0.4	0.3	0.1	0.0	0.1
フィリピン	▲3.92	▲0.23	▲3.11	▲0.40	▲2.32	▲0.35	▲0.04	0.01	▲0.01	▲0.00	▲0.44	▲0.32	▲0.08	▲0.04	▲0.04	▲0.01	▲0.08
	7.0	0.8	5.1	1.5	2.6	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.1	0.1	0.4	0.0	0.1
アルジェリア	▲2.94	▲0.05	▲0.81	▲0.40	▲0.31	▲0.04	▲0.07	0.00	▲0.00	▲0.00	▲1.98	▲1.49	▲0.06	▲0.43	▲0.01	▲0.01	▲0.07
	4.6	0.2	2.2	1.5	0.4	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	1.9	1.2	0.1	0.6	0.1	0.0	0.1
ルーマニア	▲2.87	▲0.02	▲0.43	▲0.19	▲0.19	▲0.03	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲2.35	▲1.54	▲0.41	▲0.40	▲0.01	▲0.00	▲0.04
	3.7	0.1	1.1	0.7	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.3	1.3	0.4	0.6	0.1	0.0	0.1
ペルー	▲2.63	▲0.07	▲1.06	▲0.51	▲0.43	▲0.08	▲0.05	0.00	▲0.01	▲0.00	▲0.48	▲0.36	▲0.06	▲0.07	▲0.06	▲0.02	▲0.94
	5.8	0.2	2.8	1.9	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.6	0.1	1.7
ニュージーランド	▲2.28	▲0.13	▲1.63	▲0.49	▲0.87	▲0.24	▲0.03	0.15	▲0.01	▲0.00	▲0.56	▲0.38	▲0.14	▲0.04	▲0.03	▲0.02	▲0.06
	5.6	0.4	3.5	1.9	1.0	0.6	0.1	0.6	0.0	0.0	0.5	0.3	0.1	0.1	0.3	0.0	0.1
ハンガリー	▲2.77	▲0.04	▲0.80	▲0.23	▲0.50	▲0.05	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.86	▲1.45	▲0.26	▲0.15	▲0.01	▲0.01	▲0.05
	3.9	0.1	1.6	0.9	0.6	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.8	1.2	0.4	0.3	0.1	0.0	0.1
クロアチア	▲2.78	▲0.02	▲0.50	▲0.25	▲0.20	▲0.03	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲2.20	▲1.70	▲0.33	▲0.17	▲0.01	▲0.01	▲0.03
	3.6	0.1	1.3	1.0	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.0	1.4	0.3	0.3	0.1	0.0	0.1
ブルガリア	▲2.78	▲0.02	▲0.47	▲0.21	▲0.20	▲0.03	▲0.02	0.00	▲0.01	▲0.00	▲2.23	▲1.43	▲0.20	▲0.60	▲0.01	▲0.00	▲0.04
	3.8	0.1	1.2	0.8	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.4	1.2	0.3	0.9	0.1	0.0	0.1
リトアニア	▲1.70	▲0.01	▲0.37	▲0.14	▲0.15	▲0.04	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.26	▲1.19	0.04	▲0.11	▲0.01	▲0.00	▲0.04
	3.1	0.0	0.9	0.5	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.5	0.5	0.1	0.0	0.1
ラトビア	▲2.00	▲0.01	▲0.32	▲0.12	▲0.16	▲0.02	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.60	▲1.19	▲0.28	▲0.13	▲0.01	▲0.01	▲0.04
	3.3	0.0	0.8	0.4	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	2.3	1.0	0.8	0.5	0.1	0.0	0.1
アイスランド	▲2.34	▲0.05	▲0.60	▲0.26	▲0.28	▲0.03	▲0.03	0.00	▲0.01	▲0.00	▲1.62	▲1.16	▲0.55	▲0.09	▲0.02	▲0.01	▲0.04
	3.7	0.2	1.5	1.0	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	1.8	1.0	0.6	0.2	0.2	0.0	0.1

(注)1.『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』の『貿易相手国・地域合計』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているクワイで加重平均、相手国・地域別に当該クワイを乗じたもの。

2.『アセアン』は14か国、『アセアン+1』は15か国、『中東』は23か国(貿易相手国としてはデータ制約から、『サウジアラビア』とアラブ首長国連邦を除外)、『イスラエル』は1か国のみ、『アフリカ』は12か国(同、『アルジェリア』を除く南アフリカ)1か国のみ。

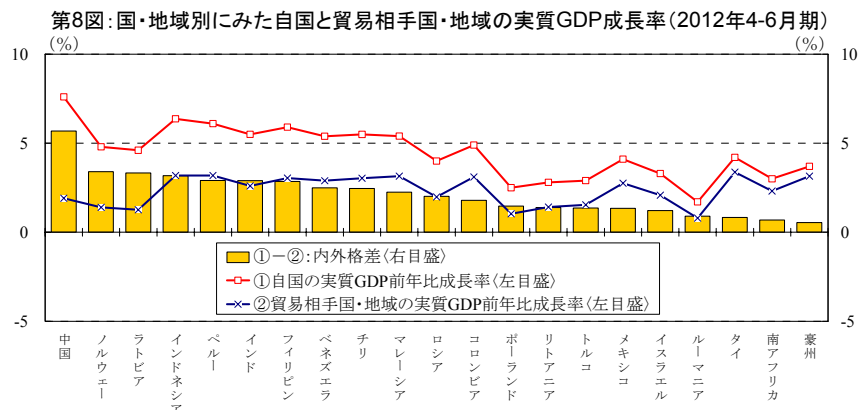
『ユーロ圏外のEU』は10か国、『EU外の欧州』は16か国、『中南米』は17か国。

(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料、IMF統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

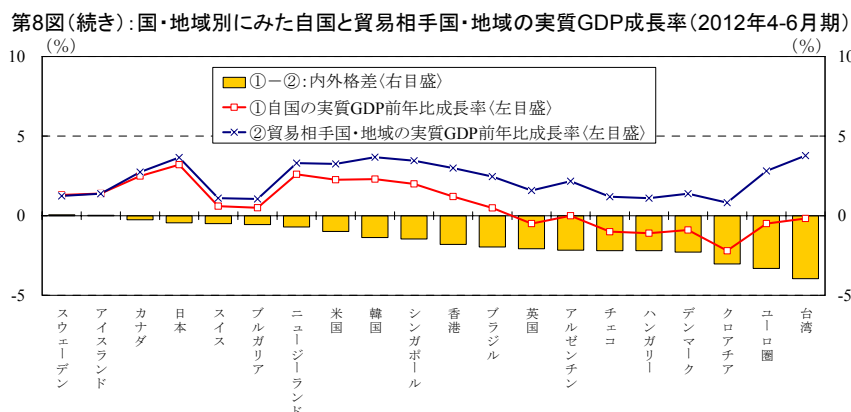
(注5) 過去2年間の変化でみた場合、日本とアジアの実質GDP前年比成長率が低下したことによる各国の「貿易相手国・地域の実質GDP成長率」へのマイナス寄与率は、名目GDP規模の上位国・地域でも、米国で52%、ユーロ圏で51%、中国で66%、日本で77%などと大きい。他方、ユーロ圏の実質GDP前年比成長率が低下したことによる各国の「貿易相手国・地域の実質GDP成長率」へのマイナス寄与率はリトアニア(70%)、クロアチア(61%)、ラトビア(60%)、チェコ(56%)、スイス(55%)、英国(49%)といった欧州諸国を中心に大きく、米国(16%)、中国(17%)、日本(12%)においては限定されている。詳細については、第1表を参照。

4. “海外経済”を凌ぐペースで成長している代表格は中国、インドネシア、インド

最後に、これまでに確認してきた「自国の実質GDP」と「貿易相手国・地域の実質GDP」の前年比成長率を差し引きし「内外格差」を見ておくことにする。直近4-6月期に前者が後者を上回る形で「内外格差」の大きかった方から並べると、中国(+5.7%)、ノルウェー(+3.4%)、ラトビア(+3.3%)、インドネシア(+3.2%)、ペルー(+2.9%)、インド(+2.9%)の順となる(第8図)。23カ国までがプラスで、ユーロ圏(▲3.3%)、米国(▲1.0%)、日本(▲0.4%)を含めて残る18カ国・地域がマイナス格差であった。上位陣には比較的経済規模の小さい国が集中し、逆に大国があまり見当たらないなか、中国(名目GDP規模は対象国・地域中3位)、インドネシア(同13位)、インド(同9位)の存在は際立って見える(ちなみにノルウェーは同19位、ラトビアは同43位)。



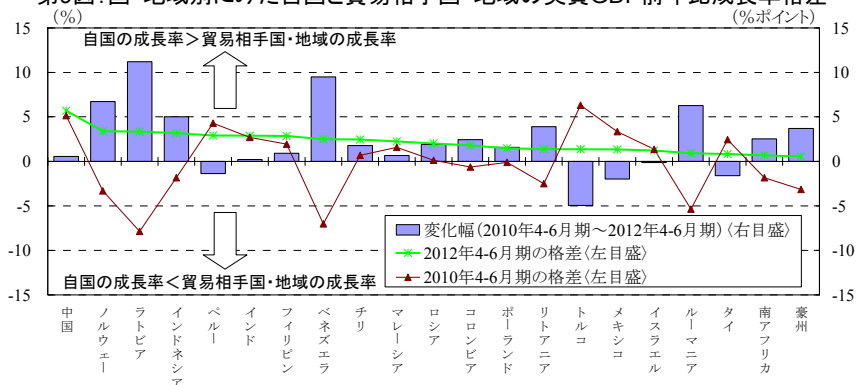
(注)『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成



(注)『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。
(資料)各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

付言すると、これらのプラス格差は自国の成長率が高いことに因っているのも特長。また、2010年4-6月期対比の変化では、ラトビア(+11.2%ポイント)やアイスランド(+9.9%ポイント)に及ばないものの、中国(+0.6%ポイント)とインドネシア(+5.0%ポイント)、インド(+0.2%ポイント)、フィリピン(+0.9%ポイント)、マレーシア(+0.7%ポイント)等のアジア諸国もプラス格差を着実に広げている(第9図)。より多くの“外需”を創り出し、今後の世界経済を牽引するに十分な潜在力を有する候補を挙げてまとめるとすれば、足元の減速を踏まえても、アジアが一番手となりそうだ。

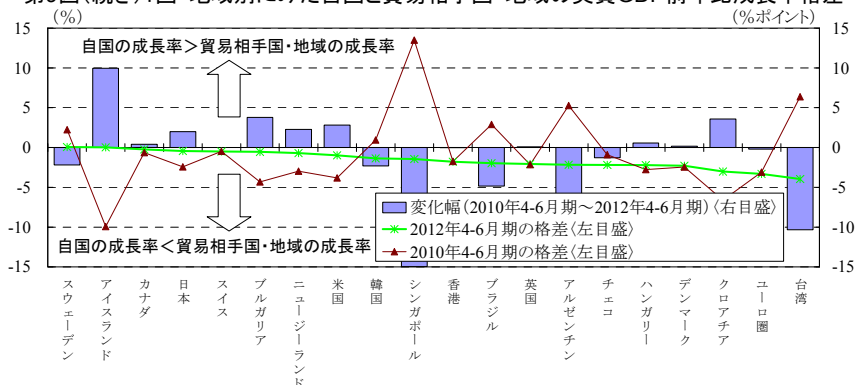
第9図: 国・地域別にみた自国と貿易相手国・地域の実質GDP前年比成長率格差



(注)『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。

(資料) 各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第9図(続き): 国・地域別にみた自国と貿易相手国・地域の実質GDP前年比成長率格差



(注)『貿易相手国・地域の実質GDP成長率』は、それぞれの実質GDP成長率を、国際決済銀行が実効為替レート(Broadベース)の算定に用いているウェイトで加重平均したもの。

(資料) 各国統計、Bloomberg、国際決済銀行資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

以上

(H24.9.25 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp)

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内 2-7-1

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。